



## 〈研究主題〉

## 子供の主体的な学びを実現する授業づくり

- 単元構成の工夫及び教員同士の聞き合いの充実 -



日本の学校教育の特長の一つは、教員がお互いの授業を参観した後で協議を行う“授業研”を定期的に行うという点にあります。児童生徒の個性を理解し効果的な授業を行るために、教師がチームとなって授業づくりの研究をするという活動が、日本の教育力を支える大きな原動力になっています。そこで本校では、数年前から“授業研”的な取り組みを実施してきました。その日の授業を題材にしながら単元全体を意識して聞き合い、次回以降の授業づくりへの示唆を得るという協議を行ってきました。ここにその研究成果をお届けします。また、学校のホームページでは聞き合いのために使用した様々な資料も公開しています。リーフレットをお読みになった上で各学部の資料をご覧いただき、授業づくりや“授業研”的な取り組みの参考にしていただければ幸いに存じます。

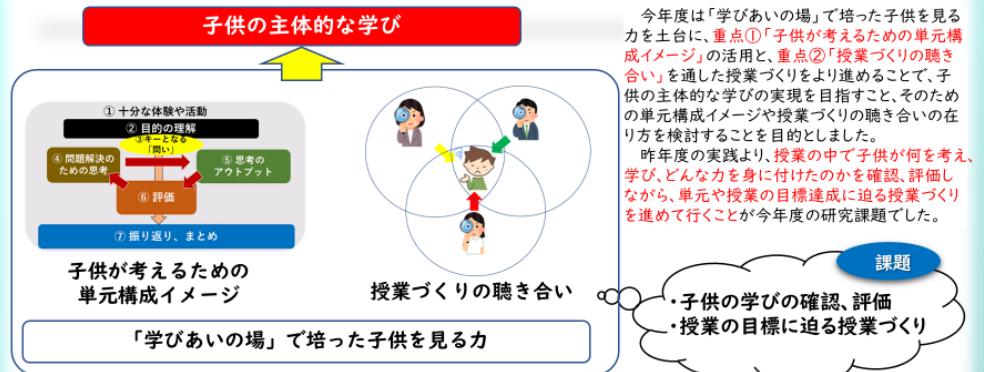
富山大学教育学部附属特別支援学校 校長 小林 真

授業研究  
「学びあいの場」

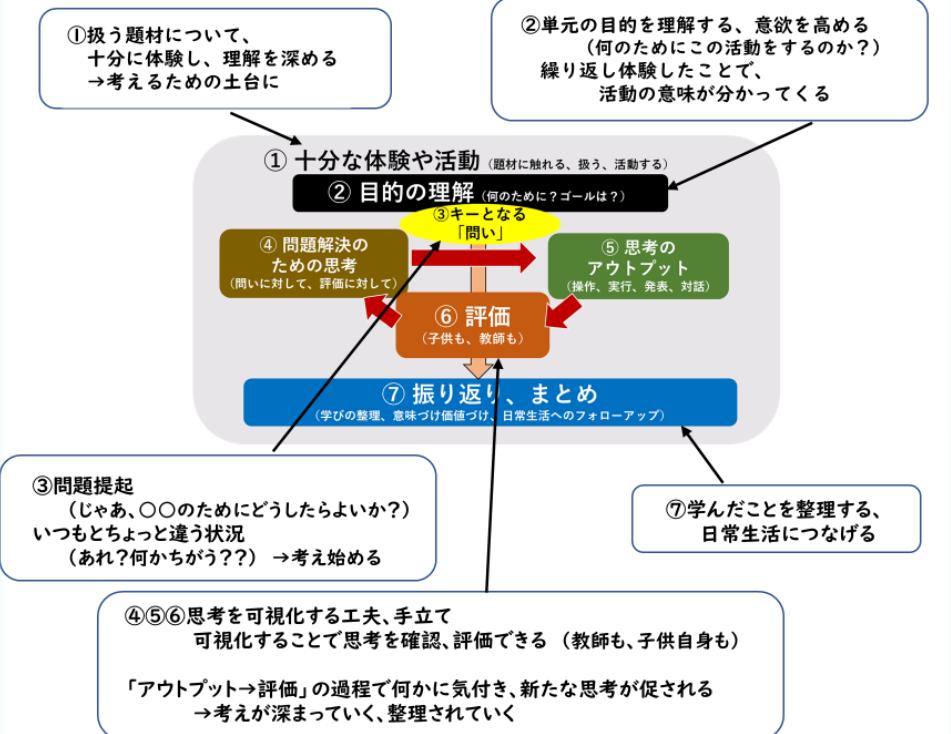
本校の授業研究「学びあいの場」では、子供の学びの過程に注目し、「子供が何を考え、どう学んでいたか」を、実際の子供の姿から見取り、捉えようとしています。子供それぞれの学び方や考え方を捉え、個別に対応していくことで、「何かに気付く」「自ら行動を変える」といった子供が主体的に考えている姿を実現し、子供のより主体的な学びの実現を目指します。



## 今年度の研究について

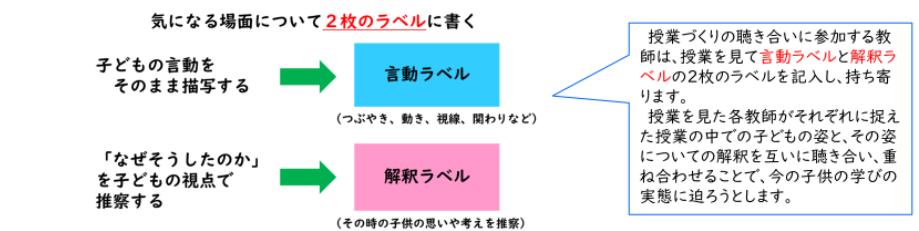


### 重点①：子供が考えるための単元構成イメージ

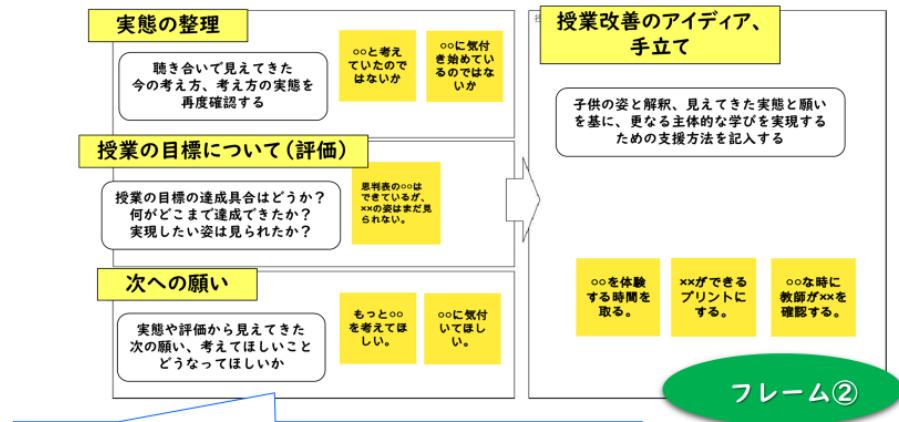
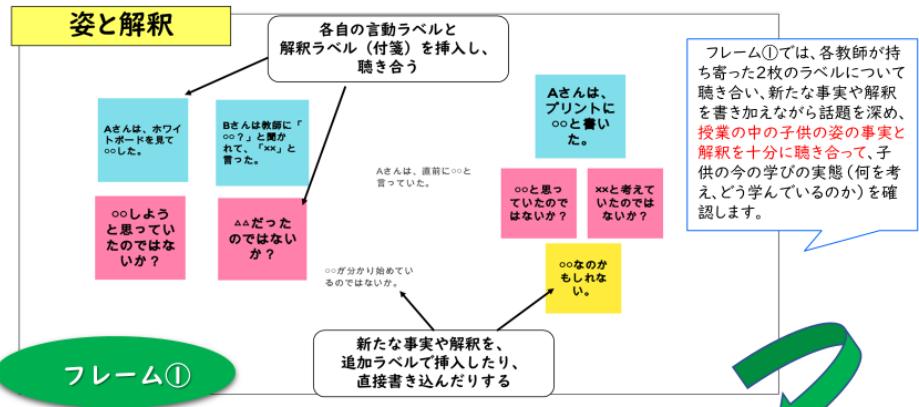


### 重点②：授業づくりの聞き合い

単元構成イメージを基に計画した授業について、「授業づくりの聞き合い」を行い、さらに授業づくり、授業改善を進めます。



### 聞き合いのプロセスを示すフレーム



フレーム②ではまず、フレーム①での聴き合いで見えてきた**子供の実態を再度整理、確認**します。次に、個別の指導計画やプリーフィングシートに書かれている**授業の目標の達成具合について確認**し、目標に向かう主体的な学びが進んでいるかどうかを確かめます。そして、整理した実態や確認した評価から見えてきた**その子供への次の願い**を聴き合います。最後に、それすべてを踏まえて、子供の更なる主体的な学びを実現するための**授業改善のアイディアや具体的な手立て、支援方法**について聴き合います。

# 授業実践① 小学部 国語「お話を読もう！～登場人物の気持ちを考えよう～」

## 単元の目標



### 知識・技能

- 物語を読んだり、挿絵と結び付けながら見たりして、物語の登場人物や行動、場面の様子について、大まかに理解することができる。

### 思考力・判断力・表現力

- 物語を読んだり、見たりして、順序や大まかな内容を捉えることができる。
- 挿絵やせりふと結び付けながら、登場人物の行動や気持ち、場面の様子を考えて、話したり書いたりすることができます。
- 音読したり、登場人物の行動や様子を演じたりすることができる。

### 学びに向かう力・人間性

- 友達と劇を通して、自分の思いや考えを伝えたり、友達の考えについて気付いたことを伝えたりすることができる。

## 学習指導要領との関連(評価規準)

- 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむことができる。  
【知技 3段階 ウ ア】
- 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ることができる。  
【思判断 3段階 A ア】
- 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像することができる。  
【思判断 3段階 C ア】
- 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすることができる。  
【思判断 3段階 C エ】
- 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりする態度を養う。  
【学び 3段階】

## 単元について

### 授業者の思い

この単元の最初に扱った童話「ヘンゼルとグレーテル」では、挿絵を手掛かりに場面ごとに登場人物の気持ちを考える学習に取り組みました。物語を演じてみることで、登場人物の気持ちを「かわいそう」、「うれしい」、「こわい」など、自分で考えたり、選択肢から選んだりして言い表そうとする様子が見られるようになりました。このことから、物語を演じる体験が、登場人物の気持ちを考える際に有効であると考えました。また、児童たちにとってもっと身近に感じられる題材を取り上げることで、より気持ちを捉えやすくすることができるのではないかと考えました。

「ろくべえまってろよ」は、穴に落ちた犬(ろくべえ)を友達同士で試行錯誤しながら、協力して救い出す物語です。ろくべえを心配し声を掛けける子供たちの気持ちや、ろくべえに歌を歌ったり、しゃぼん玉を吹いて元気付けたり楽しませたりしようとすると子供たちの気持ち、かごにろくべえの恋人のクッキー(犬)を入れて、一緒に救い出そうとするときの子供たちの気持ちなど、子供たちの気持ちの変化に寄り添いながら読み進めていくのではないかと考えました。模擬の穴や道具を用いて劇をすることを通して物語の展開を理解するとともに、登場人物的心情を考えられるようにしたい、また、友達と一緒に演じることで、物語を楽しみ主体的に読もうとする姿を引き出すことを願ってこの単元の構成を考えました。

### 対象児童について



登場人物の気持ちを考えるときに、複数の「気持ちの言葉カード」の選択肢があれば、自分の考えに近い言葉を選ぶことができると思われます。穴に落ちているろくべえを見付けた場面の劇では、3枚の選択肢の中から「だいじょうぶ」を選び、自分から模擬の穴の中に向かって言葉を掛けようとする姿が見られたことから、実際に演じる中であらすじを理解したり、気持ちを考えようとしているのではないかと考えます。



穴に落ちたろくべえを見付けた場面の劇では、懐中電灯を手に取りましたが、穴を照らすことより、懐中電灯そのものに興味があるように見え、あらすじや学習活動の理解ができていないのではないかと感じています。前時に同じ場面の劇をしたときは、「元気出して」というせりふを選び、教師から促され、穴に向かって「元気出して」と言葉を掛けっていました。普段から教師からの質問に、どう答えていいか分からず自信がない様子や自信がない様子がありますが、友達の様子を参考にすることで、学習活動の内容が分かって、取り組めることが多いです。

## 単元構成と内容

第1次	物語について知ろう(1時間) ・読み聞かせを見たり聞いたりして、おおよそのストーリーや登場人物について知る。
第2次 【本時】 5/10	<p>登場人物の気持ちを考えよう(7時間) ○めあてを確認する。 【めあて こどもたちの気持ちをかんがえよう】</p> <p>○場面ごとに、音読する。 場面①: 穴に落ちているろくべえを見付ける場面 場面②: ろくべえを助けよういろいろな方法を試す場面 場面③: 新たな作戦を思いついて試し、助ける場面</p> <p>○登場人物である子供たちになったつもりでせりふを決めたり、役を演じたりする。 ・ろくべえにかけるせりふを選択肢から選んだり、自分で考えたりして決め、劇をする。</p>  <p>○劇をした後、その場面のあらすじ(展開)を確認した上で、場面の最後の子供たちの気持ちを考える。 ・選択肢(くわい、こまつ、おもしろい、かなしい、はずかしい、さみしいなど)から選んだり自分で言葉を考えたりする。</p> <p>○○のとき、子供たちはどんな気持ちだったかな?</p> <p>③キーとなる「問い合わせ」</p>   <p>④問題解決のための思考</p> <p>⑤思考のアウトプット</p> <p>⑥評価</p> <p>○自分の考えを発表する。 ・自分の考えをプリントに書いたり、発表したり、友達の意見を聞いたりする。</p> <p>○振り返りをする。 ・板書を見ながらその日に取り上げた場面での子供たちの気持ちをどのように捉えてきたかを振り返る。</p> <p>⑦振り返り、まとめ</p>
第3次	お話を場面ごとに整理しよう(2時間) ・場面ごとのイラストを、話の流れに合わせて順番に並べる。 ・場面のイラストを見て、登場人物の気持ちを答えたり、気持ちの変化を考えたりする。

## 授業づくりの聴き合い

### フレーム①(子供の姿の事実と解釈の聴き合い)

<フレーム①>

実態の整理  
Aさんが「元気出でない」と言った場面

11/22 授業: 国語 授業者: T1上田 T2名苗 助言者: 宮先生

劇の活動で、Aさんが教師から、ろくべえが元気かどうかを尋ねられた場面の姿が話題になりました。Aさんは、子供たちが歌を歌う場面の劇をした後、ろくべえの様子を教師から聞かれる、「元気が出でない」とすぐに答えました。二つ目の歌を歌う劇の後の同じ質問にも、「元気出でない」と素早く答え、声が大きくなっていた姿から、複数の教員がAさんは自信をもって答えているのではないかと解釈し、Aさんが、これまでの学習で物語のあらすじを理解してきているのではないかという実態が見えきました。

次に、Bさんが、教師から子供たちの気持ちを問われ、「さみしい」と答えた姿について、Bさんは「子供たち」ではなく、「ろくべえ」の気持ちを答えていたのではないかと複数の教員が解釈しました。また、活動中に、Bさんが、懐中電灯でろくべえを照らして見ていた姿があり、自分で物語に出てくる物を操作し場面を再現することであらすじを理解しようとしているのではないかと考えられ、Bさんは、登場人物の気持ちを考える学習であると理解して、主体的に学ぼうとしていた姿が見えてきました。

## 授業づくりの聴き合い

### フレーム②(次への願いや授業改善の手立てについての聴き合い)

<フレーム②>

実態の整理 Aさん

「物語をひらくして物語の内には思ひ出しているところがあるよ」といひ返し

Bさん

「物語をひらくと物語を読むのが好きになってしまった。物語を読むのが好きになってしまった」といひ返し

授業改善のアイディア、手立て

「気持ちを育てて『誰の気持ち』と聞くのか、ろくべえの気持ちを育てる手立てをしてみたい」といひ返し

フレーム②のデータはこちら

授業の目標について(評価)

Aさん

「物語をひらくと物語を読むのが好きになってしまった」といひ返し

Bさん

「物語をひらくと物語を読むのが好きになってしまった」といひ返し

ワークシート

前回の物語のときばークシートを使っていたので今回も使ったうらどう

か。

ワークシート

気持ちを書く場面を作ることで表現できることで発見できる見豊い。

次への願い次の場面は、カゴとクリッキー(犬)でろくべえをひきあげる最後だけではなく、クリッキーがカゴから降りてしまった場面も

ろくべえを引き上げたときに子供の気持ちを考えてほしい。

劇や音楽で物語を理解していくってほしい。

演技の変化(高め声など)につけて「どううん」と言葉を出していくことができる。

ハンゼルとグレーテルでワークシートに登場人物の気持ちを書き出していくと何がわかるか。

Aさん、Bさんの授業での姿を基に、「物語のあらすじを理解しようとしている」、「登場人物の気持ちを考え始めている」という授業の目標の評価に関する実態から、「子供以外の登場人物の気持ちも考えられるようにしたい」、「劇の活動を楽しんでいる児童の姿も見られるので、劇の活動を今後も行い、活動を通して学んでほしい」という願いを導き出し、それを実現するために、授業改善の手立てを考えていきました。例えば、犬のろくべえは人形ではなく、児童からの関わりに反応を見せる存在として、子供たちの気持ちを追体験できるように、ろくべえ役をつくるとよいのではないか、登場人物の気持ちを書くことで考えを整理して表現できるようワークシートを活用するとよいのではないか、などのアイディアが出来ました。

### 実践を振り返って(教師の気付き、聴き合い後の授業改善について)

実態について

Aさん

- ・ろくべえの様子を教師から聞かれて、「元気出でない」と答えることができている。
- ・あらすじを理解してきている。



Bさん

- ・懐中電灯でろくべえを照して見ていた。
- ・自分で物を操作し、場面を再現することであらすじを理解しようとしている。
- ・気持ちを問われて「さみしい」と言ったが、子供たちではなく、ろくべえの気持ちを答えたのではないか。



・児童らが、物語の様子を想像して気持ちを考えられるようにしたい。  
→ろくべえ役を設定し、子供たちからの言葉掛けに対して反応を見せる。

・児童らが自分の考えを整理して表現したり、授業者の問い合わせの意味を視覚的に捉えたりできるようにしたい。  
→考えたことを話すだけでなく、ワークシートを書く活動を取り入れる。

授業改善について

劇の様子



→ろくべえ役の児童が「待ってるよ」「早く来て」と言ったり、人形を動かして子供たちに反応を返したことで、穴の中のろくべえに向かってゆっくりかごを下ろしたり、「ろくべえ行くよ」と言葉を掛けたりして演じる姿が見られた。

ワークシートを書く様子



→児童全員がワークシートに登場人物のろくべえや子供たちの気持ちを書くことができた。

ろくべえを助け出すことができた場面のワークシート(左:A児 右:B児)



→B児なりに、「よかった」というポジティブな気持ちを表す言葉の微妙なニュアンスの違い、意味理解についての実態把握をいくことが必要である。

今後の課題として  
気持ちを表す言葉の微妙なニュアンスの違い、意味理解についての実態把握をいくことが必要である。

## 授業実践② 中学部 国語「四こま漫画を作ろう、発表しよう」



### 単元の目標

#### 知識・技能

- 適切な接続詞や言葉を使って、話のあらすじを文に書き表すことができる。

#### 思考力・判断力・表現力

- 四こま漫画の構成が分かり、起承転結の内容に沿って話の内容がつながるように展開を考えたり、登場人物の表情やせりふを書いたりすることができる。

#### 学びに向かう力・人間性

- 自分が考えたことや、何について話すのかを明確にし、友達に分かりやすく伝えようとする。

### 学習指導要領との関連(評価規準)

- 主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解することができる。

【知技 中学部 1段階(オ)】

- 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすることができます。

【思判表 中学部 2段階 A聞くこと・話すこと(イ)】

- 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができます。

【思判表 中学部 1段階 B書くこと(イ)】

- 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝えあつたりしようとする態度を養う。

【学びに向かう力 中学部 1段階(ウ)】

### 単元について

#### これまでの学習

- 自分や友達が活動している写真を見て、様子を二つの文に書き表し、適切な接続詞を選んで文同士をつなぐ。



- 自分が予想した展開や活動内容を文に表すことができた。楽しい!

- 一方で、接続詞によって自分が意図したことと異なる展開、事実と異なる文に戸惑いも…

#### 授業者の思い

- 作成する人によって、文の内容が様々な結末につながる楽しさを知ってほしい。
- 様々な展開や考え方を知り、言葉や話の広がりを楽しんでほしい。
- 想像したことや考えたことなど「あっ分かった。」と思い付いたことを自由に表現してほしい。

#### 単元として

- 物語の構成として起承転結が明確で、絵と短いせりふがあり、登場人物の気持ちの変化や物語の展開を考えやすい四こま漫画を教材として取り上げた。
- 四こま漫画では、自分なりの多様な展開を考えたり、場面に合うせりふを自分なりに考えたりすることができる。
- 自分が考えた四こま漫画の展開を友達に説明する際に、既習の接続詞を用いる学習ができる。

### 単元構成と内容



#### 第1次

##### ○四こま漫画について知ろう(4時間)

- 四こま漫画には起承転結があることを知る。
- 四こま漫画の二こま目まで見て、その後の展開を予想する。
- 四こま漫画の切り抜きを物語がつながるように並べる。

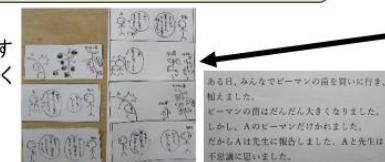
#### 第2次 【本時】 5/16

##### ○せりふを書いて、四こま漫画を完成させて発表しよう(6時間)

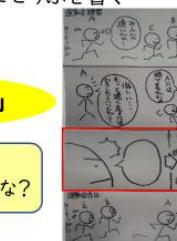
###### ②目的の理解

めあて:物語の内容に合うように、せりふを書こう。  
様々な内容の物語を楽しもう。

- ①四こま漫画の内容を表す文章を読んで、絵を正しく並べ替える。



- ②四こま漫画の三こま目にせりふを書く  
・吹き出しにせりふを書く。



###### ③キーとなる「問い合わせ」

物語がつながるように、どんなせりふを書けばいいかな?

- せりふに込めた思いや意図を発表する。

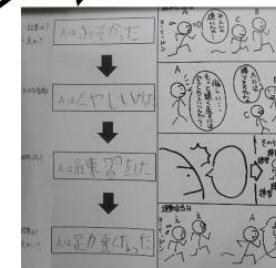


- せりふが物語に合っているか、友達と確認し合う。

###### ⑥評価

- 各場面の様子を短い文にまとめて書き表す。

###### ⑦振り返り、まとめ



#### 第3次

##### ○友達と協力して、四こま漫画を完成させて発表しよう(6時間)

- ①四こま漫画のタイトルを考えよう。

- 四こま漫画を読んで、タイトルを付ける。
- タイトルに込めた思いや意図を発表する。
- 良いと思ったタイトルや感想を発表し合う。

- ②友達と協力して四こま漫画を書こう(ペア活動)。

- 与えられた題材について関連のあることを出し合う。
- 物語のあらすじを決める。
- 物語のあらすじに沿って、絵やタイトルなどをワークシートに書く。
- それぞれのペアが作った四こま漫画を見て、感想を伝え合う。

主人公の気持ちや状況はどう変化するのかな?



# 授業実践③ 高等部 数学「表やグラフを読み取ろう～アンケートをとてみよう～」

## 単元の目標

個別の  
指導計画



ブリーフィング  
シート



### 知識・技能

- ・表やグラフを見てそれぞれの項目の数値を読み取ることができる。
- ・表を見て該当する棒グラフを選ぶことができる。

### 思考力・判断力・表現力

- ・アンケート結果のデータを整理し、表やグラフに表すことができる。
- ・表や棒グラフを見て、1位～5位までの順位を付け、それぞれの順位の項目を答えたり、数値を読み取ったりすることができます。

### 学びに向かう力・人間性

- ・表やグラフを作ることに興味をもち、データの読み取りに意欲的に取り組むことができる。

## 学習指導要領との関連(評価規準)

- ・身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすることができます。

【知能 中学部Ⅰ段階 D-ア】

- ・身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したりすることができます。

【思判表 中学部Ⅰ段階 D-イ】

- ・データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【学び 中学部Ⅰ段階 D-ウ】

## 単元について

### ○授業者の思い

本単元では、データを整理し、その結果をまとめて分かりやすく表現する方法として表やグラフがあることに気付き、表と棒グラフの関係性を捉えたり、表や棒グラフなどのデータから項目と数値を関連付けて順位を捉えるなど全体としての傾向を読み取ったりする力を育成したいと考えている。

授業では、生徒の興味関心が高い食べ物やキャラクターを題材に、高等部の友達や教員に向けてアンケートを実施し、結果を集計することで、興味をもって表や棒グラフの作成に取り組めるようにしたい。表や棒グラフの作成では①アンケートの項目ごとの丸の数を正の漢字を用いて集計し、表に整理すること、②作成した表を基に、iPadのnumbersを活用し、棒グラフを作成すること、③作成した表やグラフから分かったことを発表することに取り組みたい。また、作成したグラフや表を友達と発表し合い、全員で、項目や数値などを確認する時間を設定することで、グラフの読み取りや分析をする力を身に付けてほしい。

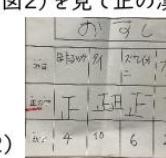
### ○対象生徒について

A:表やグラフを目にする経験はあるが、どちらが「表」でどちらが「グラフ」なのか認識があいまいである。  
データを表に整理し、順位を付けたときに、数値の小さいものから順に1位、2位とする姿が見られた。

「一番人気の項目はどれですか?」「1位はどれですか?」などの質問に答えるときに選択を間違うことが多い。表よりグラフの方が分かりやすいと言っている。

B:それぞれの項目の数値を、グラフの上端から縦軸へ指を平行移動させることで読み取るが、縦軸の目盛りが2つになると、目盛りがない部分を読むときに自信をもてないことがある。棒グラフに4位、5位の順位を付けるときに迷っている姿が見られた。表とグラフでは、表の方が分かりやすいと言っている。それが一番人気があるかを知るために表やグラフにすればよいことに気付き始めている。

## 単元構成と内容

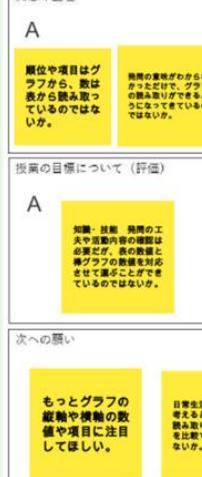
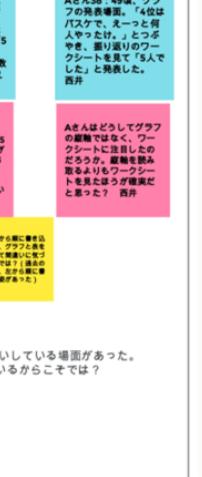
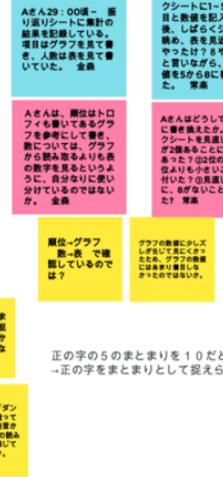
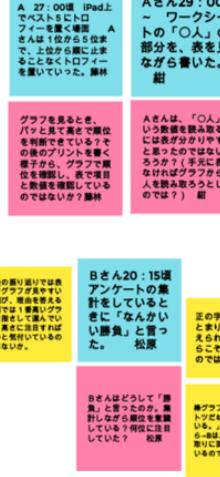
第1次	表やグラフの種類について知ろう(1時間) ・グラフの種類(棒、折れ線、帯、円)について知る。 ・身の回りにある表やグラフを探す。
第2次	表や棒グラフで表そう(3時間) ・アンケート結果一覧(図1)を見て、人気のあるものを予想する。 ・アンケートの結果をカードにしたもの(図2)を見て正の漢字を用いて数を集計し、表にまとめる。(図3)      ①十分な体験や活動 ②目的的理解
第3次 【本時】 7/9	アンケート結果を読み取ろう(5時間) めあて:高等部教員や生徒に実施した「好きな〇〇」についてのアンケート結果を集計し、読み取ろう。  ①前回の振り返り ・表を見て、それに該当するグラフを二つのグラフから正しく選ぶ。 ・項目と数値の対応を確認する。  ②アンケート結果を集計しよう ③キーとなる「問い合わせ」  1位～5位は何か調べよう。  ④問題解決のための思考  ・「好きな〇〇」についてアンケートの項目ごとの数を集計し、表にまとめる。    ⑤思考のアウトプット ⑥評価 ⑦振り返り、まとめ  ・iPadのnumbersを用いて表を基にグラフを作成する。 ・グラフから各項目の数値を読み取り、順位を付ける。(図4)   ④問題解決のための思考  ・表やグラフから得た情報(「〇位は〇〇で〇人です」など)をワークシートにまとめ、発表する。 ・友達の発表(グラフ)を見て読み取れる情報(項目、数値)を確認する。 ・表とグラフのどちらの方が分かりやすいと思ったのかを発表する。

## 授業づくりの聴き合い

### フレーム①(子供の姿の事実と解釈の聴き合い)

<フレーム①>

実態の整理

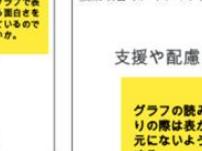


## 授業づくりの聴き合い

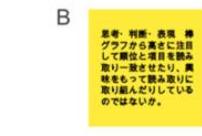
### フレーム②(次への願いや授業改善の手立てについての聴き合い)

<フレーム②>

実態の整理



授業の目標について(評価)



次への願い



○Aさんについて

「〇位は〇〇で〇〇人です」とワークシートに記入する場面で、表とグラフの両方を見ている姿が話題になりました。その姿について、「グラフの高さから順位を読み取ることができていいのか」「人数を読み取るには表が分かりやすいと思ったのではないか」「表とグラフを使い分けているのではないか」などの解釈が聞かれ、「グラフから順位や項目を、表から人数を読み取っているのではないか」というAさんの実態が見えてきました。

○Bさんについて

Aさんと同様のワークシートに記入する場面で、棒グラフの高さを見ている姿や、棒グラフを見て「ダンツツだね」と言った姿などが話題になりました。それらの姿について、「グラフの読み取り方が分かってきたのではないか」「グラフの面白さを感じているのではないか」などの解釈が聞かれ、「グラフの良さに気付いて始めるのではないか」というBさんの実態が見えてきました。

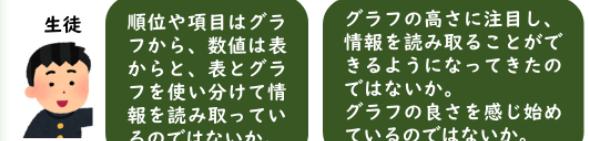


聴き合いを通して気付いたこと

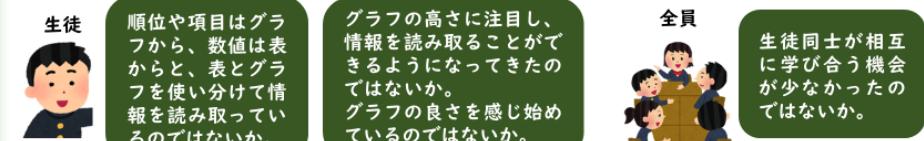
Aさん



Bさん



全員



生徒同士が相互に学び合う機会が少なかったのではないか。

次の授業は、



①グラフから数値を読み取れるように、グラフだけを提示する。  
②グラフを分析する楽しさに気付けるように、グラフから読み取れたデータの傾向を併せて掲示する。  
グラフを見て気付いたことを発表し、共有する場面を設ける。

## 実践を振り返って(教師の気付き、聴き合い後の授業改善について)

### 聴き合い後の授業について

①では、注目してほしいポイントであるグラフの縦軸、横軸を指さしながら全体へ「一番多いのは何の項目ですか」「それは何人ですか」と問い合わせをして、情報の読み取りを進めるようにしました。グラフを見て「一位が〇〇で～人でした」と答えることができる生徒が増えました。また、「表とグラフでは、どちらが分かりやすいですか?」という問いに「グラフの方が分かりやすい」とほとんどの生徒が答えるようになりました。

②では、ほとんどの生徒がグラフから数値や順位を読み取ることができましたが、その傾向を言葉で表現することは難しい様子が見られました。そこで、グラフから読み取れるデータの傾向を表す「人気」「いい勝負」などの言葉を書いた付箋を用意しました。すると、グラフの傾向に合わせて積極的に付箋を貼る姿が見られるようになり、「1位と2位に差がないね。」「これとこれは残念。人気がないね。」などと話し合い、付箋に「差がない」「人気ない」「残念」などと自ら記入し、グラフに貼る姿も見られるようになりました。

また、他のグループの生徒の目に触れるようにグラフを廊下の掲示板に提示したことでも、自然と生徒や教師たちが集まり、グラフを見ながら「これは何のグラフ?」「〇〇は～人で人気あるね。」「〇〇の項目があったら何位だろうね。」などと伝え合う機会が生まれました。このことから、データをグラフに表すことの良さをより実感することができたのではないかと思います。

フレーム②の  
データは  
こちら



## 成果と今後の課題

- 「単元構成イメージ」の活用を進めたことで、その理解を深めたり、十分な体験やキーとなる問い合わせなどの重要性を実際の授業づくりの中で実感したりすることができた。
- フレームを使った授業づくりの聞き合いに取り組んだことで、子供の今の実態（どう考えていたのか？）や授業の目標の評価に関する姿をしっかり確認してから、具体的な支援の手立てを検討するという授業改善の流れや考え方が定着した。



- ・より短時間でできる、効率的な進め方を検討する。
- ・いろいろな教科、領域等の授業づくりに用いていく。

